

高岡市男女平等・共同参画に関する意識・実態調査結果について

男女平等・共同参画課

I 調査の概要

1 調査の目的

「高岡市男女平等推進プラン（第2次）」の計画期間が令和8年度末に終了することから、次期計画を策定する際の基礎資料とするとともに、今後の男女平等・共同参画施策に反映させていくことを目的に実施した。

2 調査対象 高岡市に居住する満18歳～79歳までの男女1,300人（各650人）

3 調査期間 令和7年12月9日～12月24日

4 回収の結果 回収数 656人（回収率50.5%）

II 調査結果の要約（㊦…今回新規に設けた質問に関する事項）

1 男女の地位に関する意識

- ・ 「平等」だと感じる割合について、「学校教育の場」（44.2%）、次いで「家庭生活」（35.1%）、「PTA・保護者会」（29.3%）であった。
- ・ 「男性優遇」（「男性の方が優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）と感じる割合が高い項目は「社会通念・慣習・しきたりなど」（78.8%）、次いで「政治の場」（74.0%）となっている。
- ・ 地域活動での男女の役割分担では、「団体の主な役職には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」（40.4%）、次いで「女性自身が役職に就きたがらなかったり、発言しない（少ない）」（30.2%）、「活動の準備や後かたづけなどは女性が行う慣行がある」（24.7%）であった。

女性の方が男女の不平等感を感じている

- ・ 男女の平等に関する意識では、「男性優遇」と感じている割合は、どの項目についても男性より女性の方が高い。「法律・制度上」では「男性優遇」と感じる割合は全体では46.0%だが、男女別でみると最も差が大きく、男性が32.8%、女性が56.4%と23.6ポイントの差がある。
- ・ 前回調査と比較すると、「平等」と感じている割合は、男性の方が「家庭生活」「職場」「政治の場」の項目で約10ポイント増加したのに対し、女性ではほとんど変化がなかった。

地域活動における男女の役割分担などについて男女間で意識の隔たりがみられる

- ・ 地域活動での男女の役割分担では、「団体の主な役職には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」の回答割合が女性（46.0%）の方が男性（33.9%）よりも12.1ポイント高かった。
- ・ 前回調査（男性46.3%、女性43.5%）と比較すると、男性の方が12.4ポイント減少したのに対し、女性では2.5ポイント増加した。
- ・ 男性は「地域活動に女性の参加が少ない」の回答割合は、男性（29.6%）の方が女性（15.5%）よりも14.1ポイント高かった。

2 家庭生活における役割分担意識

- ・ 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方には、全体で賛成（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」の合計）が19.1%、反対（「反対」＋「どちらかといえば反対」の合計）が43.9%であったが、男性の方が賛成の割合が高く、女性と11.9ポイントの開きがあった。
- ・ 「男性も女性も家事や育児に参加するほうがよい」という考え方には、全体で賛成（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」の合計）が88.9%、反対（「反対」＋「どちらかといえば反対」の合計）が2.2%であったが、女性の方が賛成の割合が高く、男性と10.1ポイントの開きがあった。

家事・育児等の負担が女性に集中している背景が窺える

- ・ 家庭内の役割分担において、主に「自分」が担当していると回答した人の割合は、「家事」では女性（63.8%）の方が男性（11.1%）よりも52.7ポイント高く、「育児」では女性（31.3%）の方が男性（0.7%）よりも30.6ポイント高かった。
- ・ 前回調査（「家事」（男性15.3%、女性60.4%）、「育児」（男性1.0%、女性30.8%））と比較すると、どちらの割合もほとんど変化がなかった。

3 就業・就労の場での男女の平等感

- ・ 職場の実態について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合が高い項目は「男女は同じように研修・訓練を受けている」が53.5%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の回答割合が高かったのは、「男女に差がなく育児休業制度の整備・活用がされている」が47.7%であった。
- ㊦ 女性が職場で活躍するために必要なことでは、全体は「能力や実績に応じた評価（給料の面を含む）がなされること」が45.0%ともっとも高かった。

職場の男女差は少しずつ解消される傾向にある

前回の調査と比べると、「育児休業制度の整備・活用」「採用や退職」「仕事の分担」「介護休暇制度の整備・活用」など、ほとんどの項目で男女の差がなくなっていると回答した人の割合がわずかに増加しており、全体的に少しずつではあるが職場における男女差は解消される傾向にある。

4 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に対する考え方

- ・ 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の望ましいあり方は、男性・女性ともに「家庭生活と仕事を同じように両立させる」がもっとも高い割合であったが、実際の状況との乖離は、男性で19.7ポイント、女性で33.8ポイントであった。
 - ・ 実際の状況では、男性は「仕事を中心にしている」が望ましいあり方より13.6ポイント高く、女性は「家庭生活を中心にしている」が望ましいあり方より18.8ポイント高い結果であった。
 - ・ ワーク・ライフ・バランス実現のために必要なことでは、全体は「短時間勤務、在宅勤務、フレックスタイム（時差出勤）などの普及」が18.3%ともっとも高かった。
- ㊦ 男性の育児・介護・家事への参加のために必要なことでは、「男性が育児・介護・家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」（54.1%）、次いで「職場における上司や周囲の理解を進めること」（45.9%）、「夫婦や家族間でのコミュニケーションを図ること」（42.2%）であった。

女性の望ましい生活は家庭生活と仕事を同じように両立させること

女性の望ましい生活のあり方として、「家庭生活と仕事を同じように両立させる」という回答（55.8%）が、前回調査（49.1%）から 6.7 ポイント増加していることから、女性が仕事に関わることへの意識が高くなっている。

5 DV（配偶者等からの暴力）に関する状況

- ・ されたことがある行為（「何度もされたことがある」＋「1・2度されたことがある」の合計）では、「何を言っても長時間無視し続ける」を除くすべての項目で、女性の方がされたことがあるの割合が高かった。
 - ・ DV被害経験者の相談相手としては、「友人・知人」が 23.2%、「家族・親戚」が 17.5%、となっているが、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が 60.8%と最も高い割合であった。
 - ・ 相談しなかった理由では、女性は「相談しても無駄だと思った」（45.8%）、「相談するほどのことではないと思った」（38.9%）、男性では「相談するほどのことではないと思った」（49.0%）、「自分にも悪いところがあると思った」（28.6%）の回答割合が高い結果であった。
- ⑨ DVや性暴力に関する相談窓口では、全体は「警察相談ダイヤル#9110＜警察＞」（35.4%）、次いで「高岡市男女平等推進センター（配偶者暴力相談支援センター）」（24.1%）、「富山県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）」（14.0%）であった。

配偶者等からの暴力を何度もされたことがある人は若干増加

配偶者等からの暴力を何度もされたことがあると回答した人の割合は、女性（19.1%）の方が男性（11.8%）よりも 7.3 ポイント高かった。男女ともにこの割合は前回調査（男性 9.9%、女性 18.8%）からわずかに上昇した。

6 性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）への理解について

- ・ 性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）という言葉の認知度では、「言葉も意味も知っている」と回答した人が全体の 51.5%とであった。
- ・ 性的少数者の人権を守るための取り組みでは、「性的指向及び性自認に関する正しい理解のための周知・啓発活動」（63.2%）がもっとも高かった。

性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）への認知度はほぼ横ばい

性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）について「言葉も意味も知っている」と回答した人の割合は前回調査（53.6%）とほとんど変化がなかった。また、男女別では大きな開きはなかったが、年代別では、特に 20 代、40 代が「言葉も意味も知っている」の回答割合が高く、60 代、70 代では「言葉も意味も知っている」の回答割合が低い結果であった。

7 防災・災害復興対策で必要な取り組み

- ・ 防災・災害の復興対策で性別に配慮して取り組むために必要なことでは、「避難所内の生活環境」(74.8%)、次いで「女性のニーズの把握、支給に対する配慮」(50.2%)、「避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に女性の視点が入ること」(31.1%)であった。
- ・ 今後の防災に関して男女共同参画を推進するために必要なことでは、全体は「防災訓練や防災研修会、地域の自主防災活動に男性も女性も積極的に参加する」が44.4%ともっとも高かった。また、男性は「防災訓練や防災研修会、地域の自主防災活動に男性も女性も積極的に参加する」(52.1%)がもっとも高かったが、女性は「備蓄品に男女双方の視点を入れる」(46.3%)がもっとも高かった。

避難所生活への関心が高い

防災・災害復興対策では、「避難所の生活環境」や「女性のニーズの把握、支給に対する配慮」など、実際に被災した際の避難所生活への関心が高く、どちらも女性の方が男性よりも6ポイント以上回答割合が高く、生活環境や女性特有の配慮に対する女性のニーズの高さが窺えた。

8 地域活動・社会参画の状況

- ・ 地域活動（自治会・町内会等）への参画状況では、全体で53.4%が「参加している」と回答しており、男性(60.0%)のほうが女性(49.0%)より11.0ポイント参加している割合が高かった。
- ・ 参加していない理由では、「時間がない（仕事、家事、育児）」(25.4%)、次いで「特に理由はない」(23.0%)であった。

地域活動への参加を阻む主な理由は時間的な制約

地域活動に参加していない理由では、男女ともに「時間がない（仕事、家事、育児）」がもっとも高いが、女性(27.3%)の方が男性(22.9%)よりも4.4ポイント高かった。

9 男女平等・共同参画推進に対する考え

- ・ 男女平等・共同参画を推進するために自身でできることでは、「仕事、家事、育児などを配偶者（パートナー）とともに担う」(52.7%)、次いで「仕事と生活の時間のバランスをうまくとる」(38.9%)、「自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する」(28.7%)であった。
- ・ 高岡市が力を入れるべき施策では、「子育てや高齢者のための施設やサービスを充実する」(43.1%)、次いで「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女ともに働き方の見直しを進める」(31.7%)、「職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底する」(30.8%)であった。

仕事と生活のバランスを求めている

男女平等・共同参画を推進するために自身でできることとして「仕事、家事、育児の配偶者との分担」や「仕事と生活のバランス」の回答割合が高く、また、高岡市が力を入れるべき施策としては、「子育てや高齢者支援の充実」や「働き方の見直し」などを挙げていることから、仕事と生活の両面においてバランスを取っていくための環境を求めていることが窺える。